

牛の生命の営みを知る ～卵巣周期と妊娠の仕組み～

授精課 高橋聖

〇はじめに

牛の繁殖管理において、正確に**卵巣の周期**や**子宮の変化**を把握することは、**妊娠成功のカギ**を握っています。



弊社では、牛の繁殖管理において超音波画像診断装置（エコー）を用い、一頭一頭丁寧に見ています。

これは、牛の子宮や卵巣の状態を把握するために欠かせないもので、主に以下の3つのタイミングで行われます。

1. 発情時

発情が確認された時点で子宮や卵巣の状態を確認します。

2. 排卵確認時

排卵のタイミングを正確に把握することは、人工授精の成功率を高める鍵です。卵胞の発育状況や排卵の兆候を慎重に診断します。

3. 移植時（発情から7日目）

この時期は黄体の形成を評価し、受精卵移植の適切なタイミングを見極めます。

しかし、**相手は生きた牛**です。

今日診断した状態が明日も同じとは限りません。

たとえば、移植時に「この黄体はあまり良くない」と感じた場合でも、

翌日には充実した良好な黄体に変化していることが珍しくありません。

またそれを読み取りベストなタイミングで受精卵移植する必要があります。

〇今回は！

少々大げさなタイトルをつけてしまいましたが、

今回は、約2か月にわたり**1頭の牛**を追いつけ、その**卵巣周期から妊娠までの変化**を観察しました。

その中から、一部をご紹介します。

このプロセスを記録した長めの動画ではありますが、お時間のある方はぜひご覧いただき、**牛の生命の営み**を感じていただければ幸いです。

「牛の繁殖は複雑」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、この動画では、**日々変化する卵巣や黄体、そして妊娠の兆し**がどのように確認できるのかまとめました。

〇最後に

実務にあたる技術者に向けてもパッと見た卵巣所見がどのステージにあるのか発情から何日経っているのか、など

普段の授精業務にもうまく活用できればと思います。

この動画を通して私たちのように牛たちの繁殖を支える仕事に興味を持っていただければ嬉しいです。

